

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*岡山天体物理観測所建設途上の竹林寺山の写真発見

国立天文台天文情報センター・アーカイブ室では旧図書館の1階に保管されている天体写真乾板の整理を行っている。この中に昭和20年2月の東京天文台本館の火災で消失したと思われていた戦前のブラッシャー天体写真儀による100年以上前の天体写真乾板が発見される等の成果を上げている。筆者は旧図書館の天体写真乾板とは思われない雑物の整理を引くけている。今回は手札の乾板箱に乱雑に残されたブローニ判のロールフィルム多数、35mmフィルムが小さく丸められた36枚撮り1本のデジタルアーカイブを行った。こういった巻かれたフィルムは取り込んでみないとその正体が分からない。手間の割に成果のでない仕事である。取り込んでみるとこれらはほとんどが私物で、家族を撮影した写真であった。名前を公表するのがはばかれるが、そのご遺族の消息を知る手だてもないので、この記事でこういった写真が国立天文台に残っていることを知り、懐かしく思われ、返却を求められればお返ししたい。このフィルムを残されたのは天体掃索部におられた下保茂氏である。下保さんのお嬢さんの幼い頃の写真が大量にある。このお嬢さんももはや老齢と思われるので懐かしさもひとしおではないかと思う。それらの写真の中にわずかに仕事の写真があった。それが表記の岡山天体物理観測所建設現場のまだドームなどが建つ前の写真である。写真1が同観測所の建設地を東の遥照山(ようしょうざん)から撮影した写真である。



写真1 岡山天体物理観測所へのアクセス道路

岡山天体物理観測所は1960年10月19日に開所式を迎えている。この写真は同観測所に通じる道路が建設されて間もなくの写真と思われる。写真2が今回発見された9枚の写真のサムネイルである。



写真2 下保さんが残された岡山天体物理観測建設工事の頃の写真

岡山天体物理観測所は、それまで本格的な観測装置をもたなかった日本の天文学者の宿願であった望遠鏡の建設であった。当時世界7番目の大きさの74インチ(188cm)反射望遠鏡をイギリスから輸入した。日本でも本格的な望遠鏡の製作が出来なければということで同時に日本光学(現在のニコン)に36インチ(91cm)望遠鏡が発注され、岡山天体物理観測所は日本の観測天文学の拠点として総工費約4億円を投じて建設された。

写真1に写っている観測所へのアクセス道路は自衛隊の実習で切り開かれたもので自衛隊員がブルドーザーを使って作った道路であった。まだ軍学共同が声高に反対される前であった。筆者は高校生の頃、この観測所の建設現場を訪れている。最後の写真は、道路建設現場がよくわかる写真である。

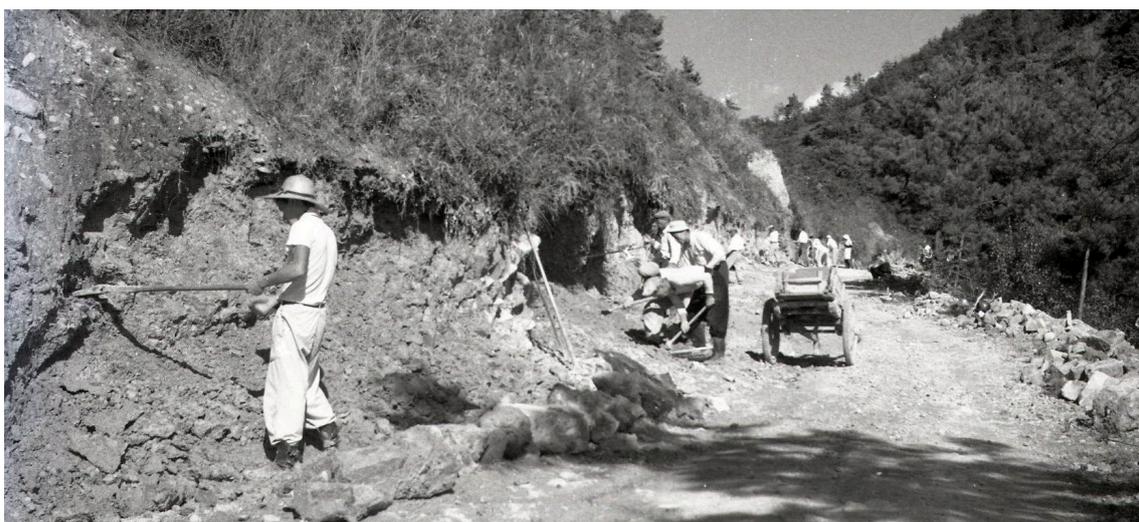


写真2 道路建設様子が分かる写真

山頂にはドームなどはないが、188cm望遠鏡ドームの北側にあった高架水槽(写真3)、

現在の岡山天文博物館東の小高い所に水道施設（写真 4）が既に建設されており、山頂付近に百葉箱（写真 5）が設置されていたようである。



写真 3 高架水槽



写真 4 水道施設



写真 5 気象観測用百葉箱

写真 5 の百葉箱は、観測所完成後もこの地に置かれ長年の気象データが蓄積されているはずである。この百葉箱のあった場所（現在も同じ?）は 91cm 望遠鏡ドーム北西である。これらの写真も、今となっては 50 年以上も前の歴史的遺産である。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaj@pub.mtk.nao.ac.jp